令和6年度第2回JCHO埼玉メディカルセンター地域医療協議会議事録

○日 時：令和7年2月10日（月）14：00～14：30

○場 所：JCHO 埼玉メディカルセンター附属老健 会議室

○議 題：1.老健デイケアの廃止について

2.地域医療連携室からの報告

3.その他

○出席者：阪 正晴（浦和医師会副会長:医師会代表）

伴 茂之（浦和医師会副会長:医師会代表）

小嶋 一晃（NPO 法人さいたまユースサポートネット:患者代表）

鴨志田 新一（埼玉県立常盤高等学校長:地域代表）

小池 竜平（さいたま市保健衛生局保健部地域医療課長:行政代表）

（さいたま市保健衛生局保健部地域医療課主幹:行政代表）

児玉 隆夫（JCHO 埼玉メディカルセンター院長）

久保 典史（JCHO 埼玉メディカルセンター副院長）

今川 正三（JCHO 埼玉メディカルセンター事務部長）

文 才理（JCHO 埼玉メディカルセンター看護部長）

齊藤 篤志（JCHO 埼玉メディカルセンター附属老健副施設長）

（事務局）

総務企画課、地域連携室

○院長挨拶

○委員紹介

1. 老健デイケアの廃止について

齊藤老健副施設長より、「通所リハビリテーションの廃止理由書」に沿って

- ① 廃止の理由
- ② 廃止時期
- ③ 利用者への対応
- ④ 職員への対応
- ⑤ 関係機関への対応
- ⑥ スケジュール

を説明した。

(伴茂之委員)

利用者への説明は10月に行われたようだが、特に問題はなかったのか。

(齊藤副施設長)

とても残念がられたが、とりまく環境や入所の維持等、いろいろな条件が重なったとご説明して、ご納得いただいた。

(児玉院長)

JCHO グループでは地域包括ケアを推進するのが1つの業務となっており、病院単体ではなく、老健・健管・訪問看護、いろいろなことをやって行きたいが、健全な病院運営をするためには減価償却の積立てをした上で、3億～4億円くらいの黒字を出していけないといけない。新型コロナの影響で病院本体の収支が赤字になっていることもあり、デイケアは一度閉鎖せざるを得ないとの判断になっている。病院の経営状態がよくなり安定化した時点で、地域からのニーズと要請があればまた再申請という道も、その時が来たら検討したいと思っている。

(小嶋一晃委員)

2025年3月28日(金)でデイケア事業は終了という事だが、情報公開はいつか。もうすでに公に知られているのか。

(齊藤副施設長)

さいたま市の介護保険課、関係している事業所やケアマネ等に連絡はしており、現在の利用者さんの次の利用先を探してもらっている。また、埼玉県介護老健保健施設協会にも昨年12月に連絡の上、書面を送付している。

2.地域医療連携室からの報告

- ① 2024年度紹介患者数
- ② 2024年度新患患者数
- ③ 地域包括ケア病棟転院相談実績
- ④ 各センター開設のご案内
 - ・手外科センター
 - ・脊椎脊髄病センター
 - ・結石センター
- ⑤ 高精度放射線治療機器導入による治療開始のご案内
- ⑥ 2024年7月から一部の診療科で患者からの電話予約も開始した

(児玉院長)

高精度放射線治療機器の整備が終わり稼働を始めた。

かなりピンポイントで安全性の高い放射線治療が出来るので、ぜひご利用ください。

委員の方からのご意見は特になし。

3.その他

委員の方からのご意見は特になし。

(児玉院長)

本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございました。

今後も年2回は開催したいと思いますので、日程が決まりましたらご連絡させていただきます。

以上